



災害における対応について

復旧支援のシミュレーション、メニュー立てを検討していく

質問 「復旧行政」の観点から、復旧支援をシミュレーション、メニュー立てし、災害発生と同時に復旧支援活動へ動く態勢はとれないか。

答弁 被害拡大の可能性や災害発生原因の把握が充分でないと復旧活動の開始は極めて困難だ。

質問 市民の「防災」に対する目が変わってきている。敏感になっている。4月の暴風対応は支援策が決まってからでも様々な相談



▲東日本大震災時に後方支援拠点となった遠野運動公園

が寄せられた。早く着手できれば、課題も早く浮かんできるとし、その手当も早くできるのでは。

答弁 我々の（4月の）対応策が隅々まで行き渡らなかったとすれば、どの点が至らなかったのか検証していきたい。そして今後活かしていきたい。

質問 多くの自然災害を経験して各部署には復旧支援策が蓄積されているはず。それを全庁横断的にリストアップしていくことが必要だ。

答弁 この模様は（インターネット中継で）職員も仕事の合間でみている。改めて職員に指令を出した。シミュレーション化、メニュー立てができるか、検討していく。

後方支援拠点整備を進めていく

質問 昨年の一般質問で播磨博一議員が「（遠野市のように）横手市も後方支援活動の拠点となる要素を持っている」と提案し、市長は前向きな答弁をされた。その後、庁内でどう検討し、後方支援のあり方についてどう思っているのか。

答弁 後方支援拠点の整備は必要だと考えている。基本的に県と周辺自治体と連携を図り、進めていきたい。

質問 支援物資のルート確保の面から県南の全自治体が参加する協議会の立ち上げが必要だ。市長がリーダーシップをとって実現してほしい。

答弁 大仙の市長とも話をした。内陸部だけでなく、由利本荘、にかほ、秋田市といった沿岸部を含めた組織化を目標に検討していく。

質問 後方支援には財政負担が問題になってくる。国が後方支援拠点整備を重視し始めたので財政的な支援が頂ける可能性が出てくる。情報収集も並行してやらなければならぬ。

くる。情報収集も並行してやらなければならぬ。

答弁 内閣府に職員を派遣しているし、防災担当参事官は旧横手市に出身していた方。ネットワークはある。また、県も相当これに対して敏感になっているはずなので積極的に働きかけていきたい。

質問 後方支援拠点には中心となる大型施設が必要。その施設は平時には「スポーツ観光」の推進にも有効だ。建設についての考えは。

答弁 既存の施設の有効活用と共に不足するならば検討が必要。スポーツ観光の面からも経済波及効果が高いと思う。総合的に検討していく。



▲後方支援拠点に考えられている赤坂総合公園

※（質問）は登壇ならびに議席での再質問を、（答弁）は市長の答弁を再答弁含め、まとめます。